

別表第 1（第 12 条関係）

評語	成績の評価	評価の内容	基準	素点 (換算の 目安)
優	A	特に優秀な成績	シラバスで計画されている到達目標を十分に達成しており，授業内容を確実に理解するとともに，発展させた知識・技能を修得できていることに加え，その知識・技能を相互に関連付けて応用できる	100～90
	B	優れた成績	シラバスで計画されている到達目標を十分に達成しており，授業内容を確実に理解するとともに，授業の基礎的な知識・技能を確実に修得できている	89～80
良	C	標準的な成績	シラバスで計画されている到達目標をおおむね達成しており，授業内容をおおむね理解するとともに，授業の基礎的な知識・技能をおおむね修得できている	79～70
可	D	合格と認められる 最低の成績	シラバスで計画されている到達目標を最低限度達成しており，授業内容を最低限理解するとともに，授業の基礎的な知識・技能を最低限修得できている	69～60
	F	不合格	シラバスで計画されている到達目標を達成しておらず，授業内容を十分に理解していない，また，授業の基礎的な知識・技能を修得できていない	60 未満
	F *	不合格（再試験を 認める場合）	シラバスで計画されている到達目標を達成しておらず，授業内容を十分に理解していない，また，授業の基礎的な知識・技能を修得できていない (F*) 再試験を認める場合)	60 未満
	I	履修未完了		
	P	成績評価の延期		

注 1 「F *」は，試験の結果，やや学修が及ばず不合格になった科目について，再試験を認める場合の評価を示す。次学期に再試験登録を行うことにより，授業への出席を要せず授業担当教員の指定する試験等（課題の提出等を含む。）の結果に基づき，D又はFの評価を行う。

2 「I」は，授業期間外に行われる実習，集中講義，不定期講義及び補講等により，成績評価期限までに成績の評価ができない科目を示す。

3 「P」は，現職教員等の社会人の履修科目について，成績評価期限までに成績の評価ができない場合の評価を示す。現職教員等の社会人の履修科目に限り，やむを得ない場合は，「P」の成績評価となった科目についての再度の「P」の成績評価を認める。

4 「F *」，「I」及び「P」の成績評価は，次学期の成績提出期限（通年で開設する科目は，次年度の成績提出期限）までに行う。

5 成績証明書の評語は，A及びBを優，Cを良，Dを可として表記する。

6 博士後期課程にあっては「F*」，「I」及び「P」の成績評価は行わない。